

# 無給医総連合ニュース No.23 無給医総連合情宣部

14.11.7

旧6回生研修開始承諾への登録医制度導入を準備する

小谷独裁下講座代表者会議を斜弾する!!

青医連・無給医バージンを公言する小谷体制を打倒せよ!  
バッジ拒否をもつて無給医ロックアウトを解除させよう!

\* 昨日、小谷執行部の召集する医局代表者会議は過去5回の教室代表者会議と同様、各講座正式代表も不明確まま、無給医、青医連をロックアウトし、学生への極端体制のことで強行された。冒頭、無給医のオブザーバー参加に対し、強力な追出しの発言をした小谷は、教官右翼部分の破壊感は救助の言葉へ無給医がいると発言していくから出ていけ)に何とか支えられて、会議を続行した。しかし、彼らは、教員会の卒后研修委員会の登録医制度反対の立場に対し、又追求の中で、自ら「登録医制度を導入する」と公言でます、「44が登録医を望むなら、登録医制度を適用する」と相手に責任を転嫁し、旧6回生研修開始承諾の密約をも、公然と正当化つけないで、旧6回生部分をも裏切る、という破廉恥ぶりを示した。

43青医連 旧6回生の研修用をまほ詔令う委員会の設置を提起した小谷は、あらかじめ示し合わせた島津(整)、前川(み)、桜根(皮)、坂本(眼)等々と、こそそと話を打ち合わせ、猿芝居を演じ、教員会研修委員会さえつぶすことを明らかにした。彼らの云う43青医連の处置は、「青医連は認めない」というものであり、青医連ルームの表札を取り去り、取りかわした

青医連との協約から、一切の「青医連」という字を抹殺し、今まで自ら「43青医連」と呼んでいたことも忘れられたのか如き顔を表した。「43」「44」などという言葉をくり返す小谷に対し、43青医連の諸君が「43の下に何がつくのですか」「44の下に何がつくのですか」と聞くや、小谷厚生部長は、慢不誠意に45でしょくしようと返答し、「いやいや、43の下に青医連という名がつかぬのですか、登録医という名がつかのです

かしの向に対し、バレたかという顔をしてニヤニヤ笑って居えないのだ。そのような内容として、43青医連の契約制と、上級部分、無給研究生との分断、そして一切の自己組織を認めないと、小谷、厚生省の路線を認めるものののみを病院でこき使う、という意図とはつきり示した。

ことに旧6回生の、卒業した日に自分がどんな部分を利用して、そこからきりくすしを計り、しかも、旧6回生に責任を追いかかせ、あたかも自主的に登録医制度を望んでいるように見せかけた。正にこきかしくも、蛇の如くに狡猾なやうをもくろんざるのだ。

\* 正に、山本(祐)が、病院前で一学生に吐露したところ、5回生には名札を一括して一学生に渡し、4回生クラス代表には渡さない。理由は「教授会のいうことを書き、授業再開するクラスには渡すが、4回生は、ストを解除していいから渡さない」という思想

弾圧であり、「無給医、青医連の方針がきまらないからバッジをつけて区別し、無給医をロックアウトしているのである。

一切の秩序が、市会補正予算へ向けて、腰を低くしてお願いし、权力の座を守ろうと必死になつてゐる反動派によつて、あたかも「大学がつぶれる」ようを恐怖をあおり出している。

(裏へづく)

彼らはもはや労働者や教員や学生の良心的羊のごとく、おとなしい者をも信じられず、学生大会をする必要もござらず、自らの目先の利害にのみ固執する盲共と手を組んで、万事うまくいくと信じている。しかし否がら、盲の手を引いて山を登つたとたんに、盲は坂下るのをもつと恐がるものだ。

\* 無給医、青医連のページは、病院の診療機能を自らつぶすものあり、官利化そのものの歯車を止めるものとなるであろう。

麻酔科3名の教員で、何例の手術が出来るというの、たゞ無給医、青医連の存在（卒後研修労働）の根本的な問題解決の方針をとして、単にその場から3人の人員対策のみでは、麻酔科の教員は決して全ての手術に協力出来まいだろう（）。青医連10～15名の研修体制によつて支えてこそ、「近代的病院」の中央麻酔機能の実体は、今や

合理化、官利化の大規模なロックとなつて教授の頭にさづかるだろう！

看護婦のしめつけ強化、人員不補充も、同様に、小谷体制自らの首をしあつてある。分析した学院生の実習に対するすり、看護婦は協力する体制が組めなくなるであろう？ 小谷よ！ おるのなら今からでも遅くはないのだ！